【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年8月8日
【四半期会計期間】	第33期第1四半期（自　平成26年4月1日　至　平成26年6月30日）
【会社名】	株式会社キョウデン
【英訳名】	KYODEN COMPANY,LIMITED
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長　　山口　鐘畿
【本店の所在の場所】	長野県上伊那郡箕輪町大字三日町482番地1 （同所は登記上の本店所在地で実際の業務は下記で行っております。）
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	横浜市都筑区川和町280番地
【電話番号】	045（929）0501
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長　　鈴木　章浩
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第１【企業の概況】

１【主要な経営指標等の推移】

回次		第32期 第１四半期連結 累計期間	第33期 第１四半期連結 累計期間	第32期
会計期間		自 平成25年4月 1日 至 平成25年6月30日	自 平成26年4月 1日 至 平成26年6月30日	自 平成25年4月 1日 至 平成26年3月31日
売上高	（百万円）	9,386	10,610	41,258
経常利益	（百万円）	124	278	980
四半期（当期）純利益又は四半期純損失（△）	（百万円）	△95	154	438
四半期包括利益又は包括利益	（百万円）	122	130	701
純資産額	（百万円）	10,252	10,749	10,805
総資産額	（百万円）	42,228	43,221	42,226
1株当たり四半期（当期）純利益金額又は四半期純損失金額（△）	（円）	△1.97	3.18	9.00
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額	（円）	―	―	―
自己資本比率	（%）	24.2	24.8	25.6

（注）1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

２【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第２【事業の状況】

１【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

２【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

３【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、中国や新興国における成長率の鈍化が懸念されるなか、米国では失業率の低下等、雇用環境の改善がみられ、欧州では国ごとに濃淡はあるものの、緩やかな景気回復が続いております。一方、日本経済におきましては、4月の消費税率の引き上げに伴う駆け込み需要の反動減の影響を受けたものの、経済対策や金融政策等の効果により株価や為替が安定していることなどを背景に、回復基調が続いております。

このような環境のもと、当社グループにおきましては、電子事業、工業材料事業のいずれについても全体的に堅調に推移し、当第1四半期連結累計期間の売上高は13.0%増の10,610百万円、営業利益は147.0%増の377百万円、経常利益は124.3%増の278百万円、四半期純利益は154百万円（前年同期は95百万円の四半期純損失）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

（電子事業）

電子事業におきましては、主力のプリント配線基板関連の国内売上が、試作・開発もの、多品種・小ロットもの、短納期要請の高いものを中心に堅調に推移し、実装の販売も順調でありました。また、ASEAN市場を中心に車載関連の需要が堅調であったことで、海外での売上高が伸びました。

この結果、売上高は15.9%増の8,402百万円、セグメント利益は321.5%増の212百万円となりました。

（工業材料事業）

工業材料事業におきましては、混和材が季節的要因や工事の伸びの鈍化により前年割れとなったものの、主力製品である硝子長繊維原料と耐火物の売上が堅調に推移し、生産効率化やコスト削減に努めた結果、利益面でも前年を上回る水準を確保することが出来ました。

この結果、売上高は3.1%増の2,205百万円、セグメント利益は45.1%増の170百万円となりました。

(2) 財政状態に関する分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は43,221百万円となり、前連結会計年度末に比べ994百万円増加しました。主な増減は、現金及び預金の増加1,719百万円、受取手形及び売掛金の増加522百万円及び有形固定資産の減少1,421百万円であります。

負債の残高は32,472百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,051百万円増加しました。主な増加は短期借入金の増加71百万円、長期借入金の増加799百万円及び退職給付に係る負債の増加82百万円であります。

純資産の残高は10,749百万円となり、前連結会計年度末に比べ56百万円減少しました。主な減少は、退職給付会計基準等の適用等による利益剰余金の減少31百万円及び為替換算調整勘定の減少10百万円であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当社グループは、プリント配線基板の製造技術、工業材料事業に関する機能性材料や高付加価値加工製品の開発等を研究開発しております。

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は63百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第３【提出会社の状況】

１【株式等の状況】

（１）【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数（株）（平成26年6月30日）	提出日現在発行数（株）（平成26年8月8日）	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	52,279,051	52,279,051	東京証券取引所（市場第二部）	単元株式数100株
計	52,279,051	52,279,051	―	―

（２）【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

（３）【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

（４）【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

（５）【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数（株）	発行済株式総数残高（株）	資本金増減額（百万円）	資本金残高（百万円）	資本準備金増減額（百万円）	資本準備金残高（百万円）
平成26年4月 1日～平成26年6月30日	―	52,279,051	―	4,358	―	3,159

（６）【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

（７）【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

平成26年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	―	―	―
議決権制限株式（自己株式等）	―	―	―
議決権制限株式（その他）	―	―	―
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 3,592,500	―	―
完全議決権株式（その他）　（注）	普通株式 48,681,800	486,818	―
単元未満株式	普通株式 4,751	―	1単元（100株） 未満の株式
発行済株式総数	52,279,051	―	―
総株主の議決権	―	486,818	―

（注）　「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が5,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数50個が含まれております。

②【自己株式等】

平成26年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
㈱キョウデン	長野県上伊那郡箕輪町大字三日町482番地1	3,592,500	―	3,592,500	6.87
計	―	3,592,500	―	3,592,500	6.87

２【役員の状況】

該当事項はありません。

第４【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

（1）【四半期連結貸借対照表】

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,439	10,158
受取手形及び売掛金	11,317	11,840
有価証券	500	500
商品及び製品	1,205	1,171
仕掛品	1,001	1,120
原材料及び貯蔵品	2,563	2,640
その他	705	647
貸倒引当金	△5	△6
流動資産合計	25,727	28,073
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,481	5,497
その他（純額）	8,285	7,847
有形固定資産合計	14,766	13,345
無形固定資産	271	274
投資その他の資産		
その他	1,755	1,811
貸倒引当金	△294	△283
投資その他の資産合計	1,461	1,528
固定資産合計	16,499	15,147
資産合計	42,226	43,221

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,308	5,181
短期借入金	7,315	7,387
1年内償還予定の社債	710	710
1年内返済予定の長期借入金	3,059	3,098
未払法人税等	111	25
賞与引当金	462	310
その他	2,589	3,294
流動負債合計	19,556	20,007
固定負債		
社債	1,560	1,400
長期借入金	6,439	7,201
役員退職慰労引当金	23	23
退職給付に係る負債	1,508	1,591
その他	2,332	2,248
固定負債合計	11,864	12,464
負債合計	31,420	32,472
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,358	4,358
資本剰余金	4,159	4,159
利益剰余金	3,668	3,637
自己株式	△681	△681
株主資本合計	11,504	11,472
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	70	63
繰延ヘッジ損益	―	△6
為替換算調整勘定	△797	△807
退職給付に係る調整累計額	11	8
その他の包括利益累計額合計	△715	△741
少数株主持分	16	18
純資産合計	10,805	10,749
負債純資産合計	42,226	43,221

（２）【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第１四半期連結累計期間】

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 (自　平成25年4月 1日 至　平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自　平成26年4月 1日 至　平成26年6月30日)
売上高	9,386	10,610
売上原価	7,957	8,928
売上総利益	1,429	1,681
販売費及び一般管理費	1,276	1,304
営業利益	152	377
営業外収益		
受取利息	3	0
受取配当金	0	0
持分法による投資利益	―	6
負ののれん償却額	55	―
為替差益	71	―
その他	17	18
営業外収益合計	148	26
営業外費用		
支払利息	85	91
持分法による投資損失	27	―
その他	64	33
営業外費用合計	177	125
経常利益	124	278
特別利益		
固定資産売却益	0	12
特別利益合計	0	12
特別損失		
減損損失	―	※1 38
その他	※2 209	―
特別損失合計	209	38
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△85	252
法人税、住民税及び事業税	24	31
法人税等調整額	△17	63
法人税等合計	7	95
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△92	156
少数株主利益	3	1
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△95	154

【四半期連結包括利益計算書】
【第１四半期連結累計期間】

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 (自　平成25年4月 1日 至　平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自　平成26年4月 1日 至　平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△92	156
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5	△6
繰延ヘッジ損益	0	△6
為替換算調整勘定	201	△6
退職給付に係る調整額	―	△2
持分法適用会社に対する持分相当額	18	△3
その他の包括利益合計	214	△26
四半期包括利益	122	130
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	118	128
少数株主に係る四半期包括利益	4	1

【注記事項】

（会計方針の変更）

（退職給付に関する会計基準等の適用）

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号　平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号　平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を残存勤務期間に基づく割引率から単一の加重平均割引率へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債が62百万円増加し、利益剰余金が40百万円減少しております。また、当第1四半期連結累計期間の連結損益計算書に与える影響は軽微であります。

（四半期連結貸借対照表関係）

1　受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 （平成26年3月31日）	当第1四半期連結会計期間 （平成26年6月30日）
受取手形裏書譲渡高	52百万円	60百万円

（四半期連結損益計算書関係）

※1　減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

当第1四半期連結累計期間（自　平成26年4月1日　至　平成26年6月30日）

場所	用途	種類
東京都	事業用資産	有形固定資産「その他」

当社グループは、電子事業においては、主に事業会社ごとを1つの単位として資産のグルーピングをしております。また、工業材料事業においては、管理会計上の区分を単位として資産のグルーピングをしております。ただし、将来の使用が見込まれていない遊休資産及び賃貸用不動産については、個別の資産グループとして取り扱っております。

当第1四半期連結累計期間において、電子事業を行っている当社及び工業材料事業を行っている連結子会社1社の事業用資産について、事業所を移転することが決定したため、減損損失を認識しております。

なお、当該資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、売却が見込めない資産については零として評価しております。

（減損損失の金額）

有形固定資産「その他」	38百万円
合計	38百万円

※2　特別損失「その他」の主な内容は次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 （自　平成25年4月 1日 至　平成25年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自　平成26年4月 1日 至　平成26年6月30日）
工場移転費用	209百万円	－百万円

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係）

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）、のれんの償却額及び負ののれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 （自　平成25年4月 1日 至　平成25年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自　平成26年4月 1日 至　平成26年6月30日）
減価償却費	368百万円	372百万円
のれんの償却額	7	6
負ののれんの償却額	55	―

（株主資本等関係）

Ⅰ　前第1四半期連結累計期間（自　平成25年4月1日　至　平成25年6月30日）

配当金支払額

（決　議）	株式の種類	配当金の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月15日取締役会	普通株式	146	3	平成25年3月31日	平成25年6月12日	利益剰余金

Ⅱ　当第1四半期連結累計期間（自　平成26年4月1日　至　平成26年6月30日）

配当金支払額

（決　議）	株式の種類	配当金の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月15日取締役会	普通株式	146	3	平成26年3月31日	平成26年6月11日	利益剰余金

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第1四半期連結累計期間（自　平成25年4月1日 至　平成25年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他（注）1	合計	調整額（注）2	四半期連結損益計算書計上額（注）3
	電子事業	工業材料事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,247	2,139	9,386	－	9,386	－	9,386
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－	－
計	7,247	2,139	9,386	－	9,386	－	9,386
セグメント利益又は損失（△）	50	117	167	△15	152	0	152

（注）1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、EV事業を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去0百万円が含まれております。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

重要な減損損失はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

重要な変動はありません。

（重要な負ののれん発生益）

重要な負ののれん発生益はありません。

Ⅱ　当第1四半期連結累計期間（自　平成26年4月1日 至　平成26年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他（注）1	合計	調整額（注）2	四半期連結損益計算書計上額（注）3
	電子事業	工業材料事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	8,402	2,205	10,608	1	10,610	－	10,610
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－	－
計	8,402	2,205	10,608	1	10,610	－	10,610
セグメント利益又は損失（△）	212	170	383	△6	376	0	377

（注）1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、EV事業を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去0百万円が含まれております。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「電子事業」セグメント及び「工業材料事業」セグメントにおいて、事業所の移転が決定したため、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては、「電子事業」セグメント21百万円、「工業材料事業」セグメント16百万円であります。

（のれんの金額の重要な変動）

重要な変動はありません。

（重要な負ののれん発生益）

重要な負ののれん発生益はありません。

（１株当たり情報）

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 （自　平成25年4月 1日 至　平成25年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自　平成26年4月 1日 至　平成26年6月30日）
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額（△）	△１円97銭	3円18銭
（算定上の基礎）		
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額（△）　（百万円）	△95	154
普通株主に帰属しない金額　（百万円）	－	－
普通株式に係る四半期純利益金額又は 四半期純損失金額（△）　（百万円）	△95	154
普通株式の期中平均株式数　（千株）	48,686	48,686

（注）　潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

２【その他】

平成26年5月15日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

（1）配当金の総額　146百万円

（2）１株当たり配当金　3円00銭

（3）効力発生日　平成26年6月11日

（注）　平成26年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年8月4日

株式会社キョウデン

取締役会　御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員　公認会計士　岡　田　吉　泰　印

指定有限責任社員
業務執行社員　公認会計士　杉　田　昌　則　印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社キョウデンの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社キョウデン及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

（注）1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. ＸＢＲＬデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。